

4. 保全・活用に向けた課題と評価

4-1. 自然環境の保全・活用に向けた課題

1) 自然環境の保全に向けた課題

台峯緑地の植生は多様でまとまった規模の樹林地を形成しており、少ないながらも安定した自然林が存在する。しかし多くは里山が放棄された二次林（代償植生）であり、近年人の手が入れられていないため立木の過密化や林床植生の貧弱化などの問題を抱えている。また耕作放棄地が草地化している部分も多く見られ、遷移途中にある群落や自然の多様性が低い群落を保全活用の面から検討し、適切な植生状態へ誘導することが必要である。自然環境の保全に向けた課題は以下のように整理される。

■貴重な群落、自然林の保全	： 市内でも貴重なハンノキ群落やスダジイ等の自然林は、活用とのバランスに配慮しながら保全することが必要である。
■二次林の保全と健全化に向けた管理	： 遷移の進んだ二次林は、多様で安定した植生環境となるよう、林床や立木密度など面的な管理、又は部分的な管理を行うために、モニタリングを実施する必要がある。
■水辺環境の乾燥化に対する管理	： 湿地の乾燥化が進んでおり、現況の湿地環境を保全するためには植物遺体の定期的な搬出など、人の手による適切な管理方法の模索が必要である。
■草地・放棄された農地の管理	： ササの根を取り除いて、ススキ草原や原っぱとして保全することが必要である。

2) 自然環境の活用に向けた課題

台峯緑地は市内でも貴重な保全すべき自然環境であるとともに、一方で市街地に近接し魅力ある自然景観を有している貴重な市民の財産でもある。従って、自然環境の保全を前提として市民利用に向けた課題は以下のように整理される。

■水辺景観の活用	： 台峯緑地のシンボルである台峯の谷戸のため池周辺や湿地を中心とした、植生と一体となった自然景観を活かすことが必要である。
■農地の管理、放棄農地の再利用	： 営農条件を考慮して畑地や、放置された水田の再生など台峯緑地の自然環境の多様性を継承する要素として整備することが必要である。
■特徴のある群落の育成	： ハンノキ群落や、一面に広がる湿生植物等の台峯緑地を特徴づける群落を保全育成して、台峯緑地の自然景観の魅力を維持し高めることが必要である。

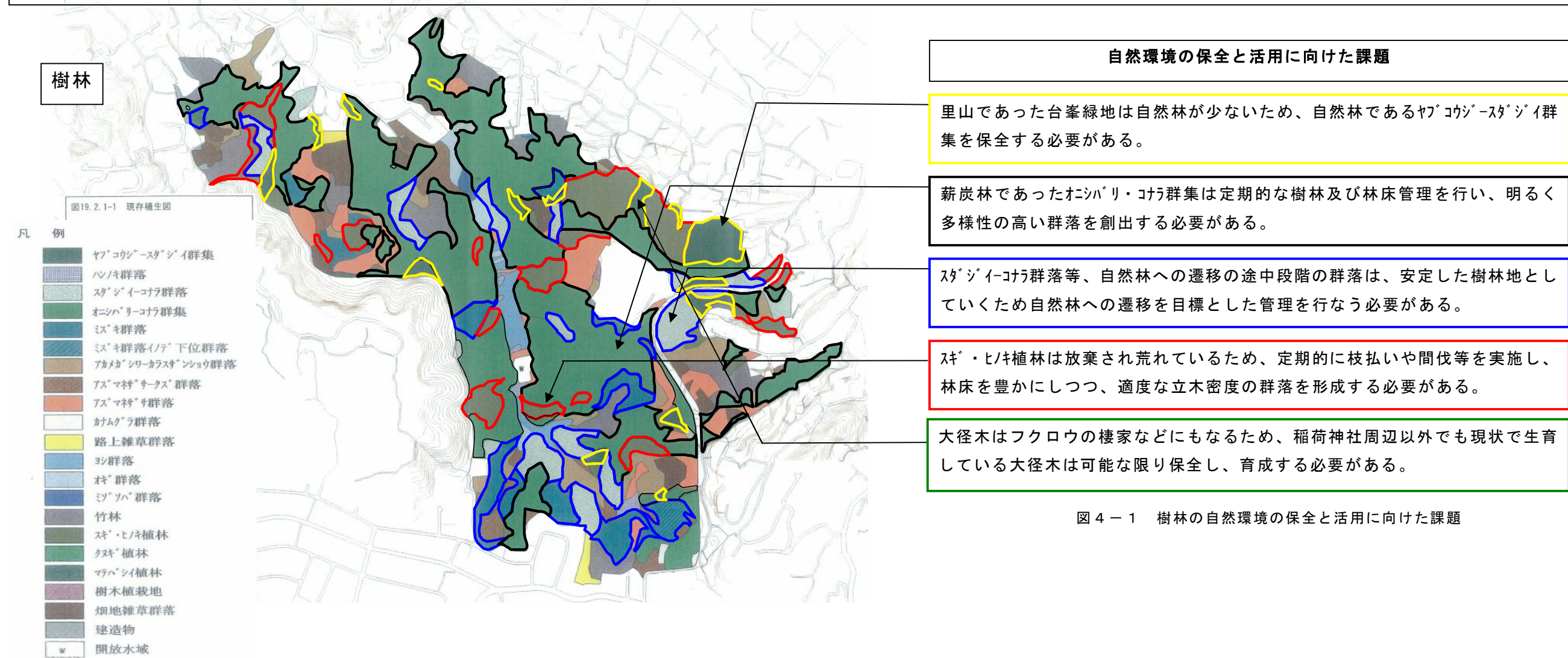
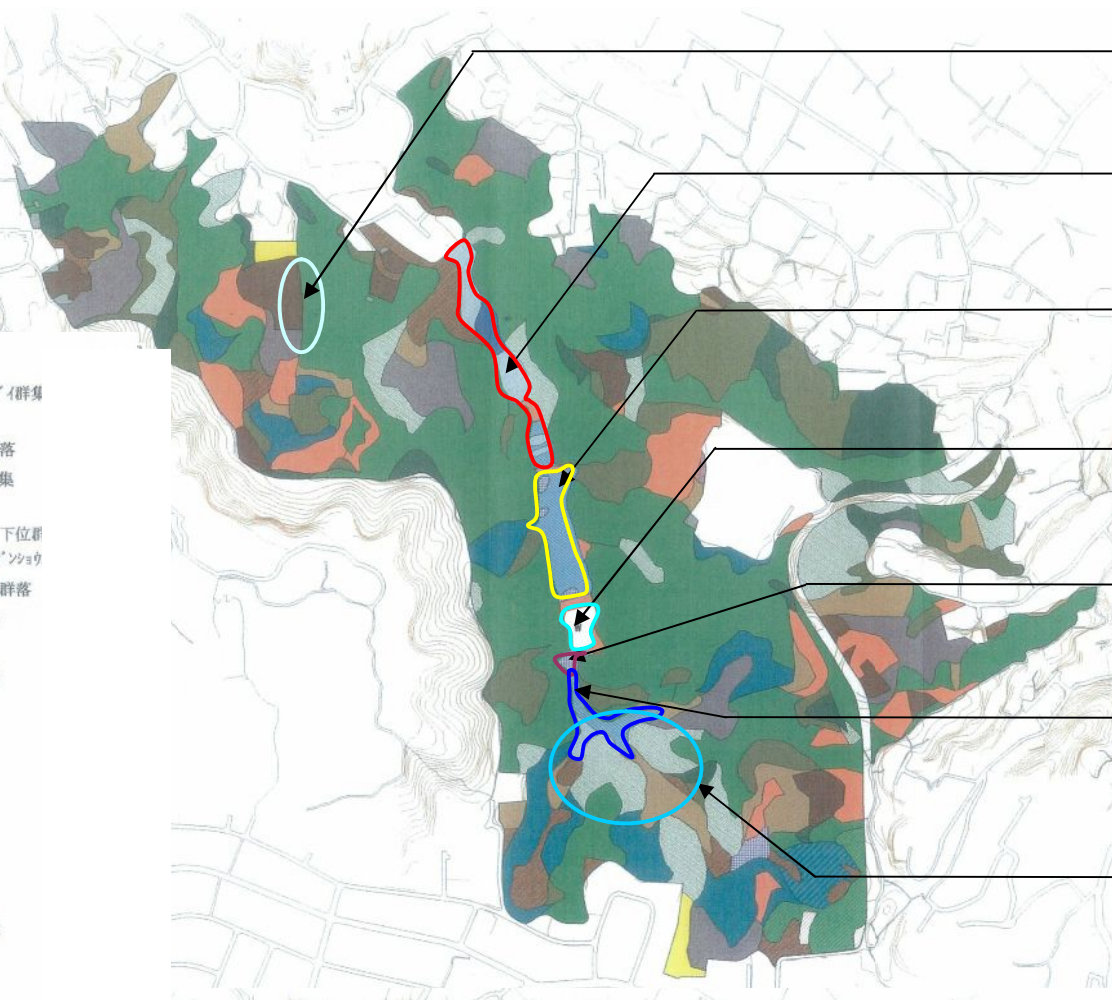


図4-1 樹林の自然環境の保全と活用に向けた課題

水辺

凡 例

- ヤブコウジ・スサギ・シイ群落
- ハノキ群落
- スダジイ・コナラ群落
- オニハ・リコナラ群落
- ミズキ群落
- ミズキ群落イデ下位群
- アカカ・シラカサ・ンショウ
- アズマササキ・ササ群落
- アズマササキ群落
- カキ群落
- 路上雑草群落
- ヨシ群落
- オキ群落
- ミヅナ群落
- 竹林
- スギ・ヒノキ植林
- クヌギ植林
- マサハシ植林
- 樹木植栽地
- 畑地雑草群落
- 建造物
- W 開放水域



自然環境の保全と活用に向けた課題

乾燥化が進み放置された水田跡地であるが、多くの動物の生息地となっており、自然環境の多様性を保全し、向上させるため、水環境・湿地環境の改善が必要である。

乾燥化が進む下流部湿地のヨシ、ササ、ミヅナ群落はササ原の現状維持やヨシ原の復元など目標像の設定と管理が必要である。

水路と湿生植物がセットになった魅力的な自然環境であるが、多くの人圧には耐えられないため、保全を前提にどのように見せるのか検討する必要がある。

溜池の良好な止水環境を保全し、人圧から動物の生息環境機能を確保するため、ハイライト的景観の見せ方は考慮しつつ散策路の限定など利用制限を行なう必要がある。

台峯緑地のシンボリックな群落であるハノキ群落を保全し、中流部湿地などの単木のハノキを群落に誘導し、ヨシ群落は、ハノキ林への遷移を促すことも検討する必要がある。

溜池上流部の湿地は、溜池やハノキ林など景観に優れるポイントであるが重要な湿地であるため踏み固めないよう、立ち入り制限等をおこなう必要がある。

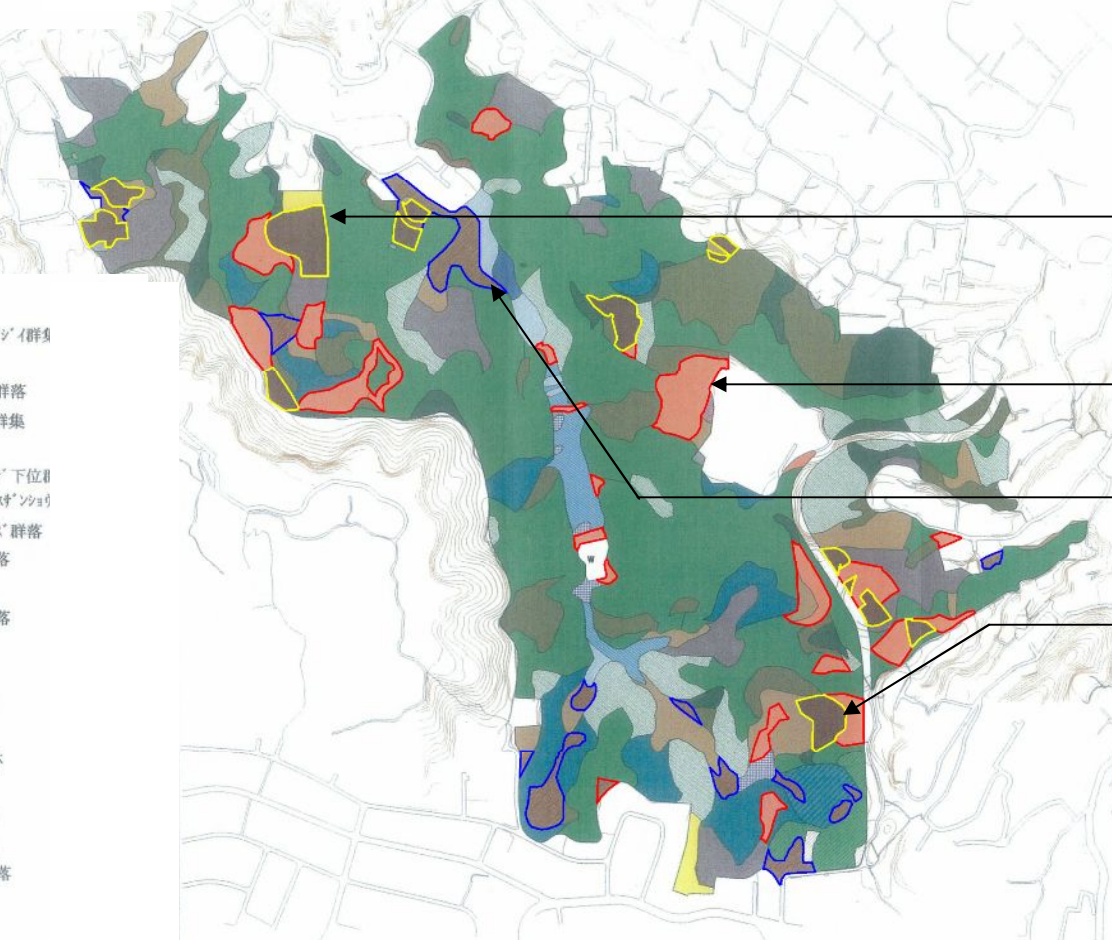
水路の侵食（洗掘）対策や水路に覆いかぶさったササを刈るなど、定期的な管理を行なう必要がある。

図 4 - 2 水辺の自然環境の保全と活用に向けた課題

草地

凡 例

- ヤブコウジ・スサギ・シイ群落
- ハノキ群落
- スダジイ・コナラ群落
- オニハ・リコナラ群落
- ミズキ群落
- ミズキ群落イデ下位群
- アカカ・シラカサ・ンショウ
- アズマササキ・ササ群落
- アズマササキ群落
- カキ群落
- 路上雑草群落
- ヨシ群落
- オキ群落
- ミヅナ群落
- 竹林
- スギ・ヒノキ植林
- クヌギ植林
- マサハシ植林
- 樹木植栽地
- 畑地雑草群落
- 建造物
- W 開放水域



自然環境の保全と活用に向けた課題

放棄された水田は、自然環境の多様性の継承の意味から市民利用による再生等を検討する必要がある。

アズマササキ群落は定期的な草刈りを行い、密生具合を緩和させ、広場的な草原にするなどの活用を検討する必要がある。

アズマササキ・ササ群落は周辺環境や立地条件により、樹林への遷移、市民利用のための施設による活用等場所ごとの適切な目標を設定し変えていく必要がある。

耕作されている畑地については、条件が整えば継承を検討し、そうでない畑地や放置されたままの畑地は樹木の苗木畑にしたり、ススキ草原にするなど、目標を検討する必要がある。

図 4 - 3 草地の自然環境の保全と活用に向けた課題